

豊島区立目白小学校改築基本設計業務プロポーザル 審査経過及び審査講評

豊島区立目白小学校改築基本設計業務
プロポーザル選定委員会

1. 審査経過

(1) 技術提案書提出者の選定

参加表明書の提出のあった27者について、組織体制、業務実績、受賞歴、実施体制等、所定の各評価項目についての評価点(一次)の結果に基づき、上位5者に技術提案を求めることが承認された。5者には順不同にA~Eまで記号をふり、以降、ヒアリング、審査を通じてこの記号で呼び、匿名性を保つこととして審査の公正を期した。

(2) 設計者の選定

業務の実施方針に加え、下記の内容について技術提案を求めた。

これからの時代に対応する教育内容・教育形態にふさわしい施設、設備のあり方についての提案

敷地の特性、周辺地域との調和を踏まえた施設整備のあり方についての提案

緑化計画についての提案

コスト削減についての提案

環境負荷の低減についての提案

第2回選定委員会において、提出された技術提案書についての評価は、選定委員6名に評価委員6名が加わり、計12名で行うこととし、選定は、評価項目について各委員が採点した結果の合計点数で行うことが了承された。

評価は、提案を求めた5項目、および取組意欲、業務の理解度、業務の実施方針の計8項目にわたり5段階で行った。各委員は事前に提案書を十分に読み込み、事前採点を行った上ヒアリングに臨んだ。ヒアリングは各提案者10分の説明と15分の質疑応答を行った。

ヒアリング終了後、審査委員会による意見交換、検討が行われた。まず、12名の委員全員が各提案の内容、ヒアリングから受けた印象等について意見と評価を述べた。意見交換、討議を尽くした後、集計に入ることとし、議論をもとに評価の観点、誤解や見落としによる間違いをなくすため、必要な委員は集計に入る前に修正を加える機会を設けた。各委員が評価点について修正を行った後、集計を行った。

この結果に基づき、最優秀案をB者(株式会社日本設計)、次点をC者とすることが全会一致で決定された。

2. 講評

各者の提案内容および説明の様子からは、基本計画にまとめられた項目や、目白小の建替え等を考える会がまとめた提言書で大事にしている内容について、十分に理解しようとした態度と業務に対する意欲が感じられた。各案とも、厳しい条件の中、目白小学校の敷地及び周辺の条件をよく読みとり、設計理念や学校観をもとに、ユニークなアイデアをもって解を見出し、積極的に提案に生かそうとしていることが感じられ、独自の特徴と魅力を備えていた。短期間にもかかわらず、密度の高い提案をしていただいた各者に、はじめに審査員一同心から敬意と謝意を表したい。

評価に当たって、各委員から出された視点をあげると、課題に対する的確性や独創性、説明の仕方やチームワークのよさ、単にアイデアがよいだけでなくどう具体化されているか、プランのよしあし以上に総合力・分析力・表現力を重視する、スムーズな管理運営が可能なゾーニング、校庭の幅等があった。とりわけ目白小学校の建設計画においては、関係者が議論を重ねながら進めていくことになり、今回の提案事態に不足の点はあっても、今後柔軟な対応が期待でき、出された意見を受け入れながら仕立てていける骨格のよさが評価された。その結果、上記の審査経過で示したとおり、A、B、Cの3者と、D、Eの2者との間で少し開きがある結果となり、A、B、Cは微差であり、提案内容は遜色ないものと認められたが、A者、C者はB者にわずかに譲ることになった。

今回、受託候補者に選定されたB者(株式会社日本設計)はヒアリング時の説明や応答からチームワークのよさが感じられ、今後共に計画を進めていくパートナーとして信頼感があった。向かいの学習院の森と一体に緑をとらえるとともに、住宅地に向かう階段状の緑の学校活動への活かし方や近隣住宅地に対する配慮の仕方等、本校の立つ地域をよく研究した上で、大きな骨格が示され可能性が感じられる。教室まわりの構成等には今後の提案が求められるが、全体におおらかな配置で子どものさまざまなアクティビティを生み出す空間・場所が用意された構成は魅力があり、今後の検討に対する柔軟性を備えている。これらの点が評価され、総合的に高い得点となった。